

『#疫病神』（黒川博行著、年）を読んでみた。著者は京都市立芸術大学彫刻科卒業後、会社員、府立高校の美術教師として勤務。『キャッツアイころがった』でサントリーミステリー大賞を受賞、『破門』で直木賞、20年ミステリー文学大賞を受賞した。最高傑作については「疫病神シリーズの最高傑作『国境』」という声が多い。リアルな警察小説として『悪果』が最高傑作」という意見もある。

ヤクザK（疫病神）と建設コンサルタントNの二人組が、暗躍する物語は、疫病神シリーズと言われている。本作に続いて前回に Review した『国境』、そして『暗礁』、『螻蛄』、『破門』、『喧嘩』、『泥濘』と続いてゆく。TV でも映像化されている。

建設コンサルタント N の生業は、建設現場でのヤクザ絡みのトラブル処理（サバキ）である。借金に苦しむ生活の中、産業廃棄物処理場をめぐる高額の依頼に飛びつくが、カネの匂いをかぎつけたヤクザの K と止む無く共闘することになる。依頼人の失踪、妨害の数々。事件を追う中で見えてきたのは、数十億もの利権に群がるカネの亡者たちだ。建設会社、市議会議員、極道。巨額の利権に群がる悪党たちを相手に、二人は事件の真相に近づいてゆく。話の流れがテンポよく、大阪の街のリアルな情景や誰が読んでも分かり易い大阪弁、そこに食事のシーンが挿入されている。読むのが病みつきになり、シリーズを読破したくなる。

産業廃棄物に関する法律

「廃棄物処理法」であり、排出事業者に処理責任を課している。しかし、不法投棄や最終処分場不足、マニフェスト制度の形骸化などが大きな問題点として残っている。

法律

- ・廃棄物処理法（正式名称：廃棄物の処理及び清掃に関する法律）

1970年に制定され、事業活動で発生する廃棄物の適正処理を目的としている。

- ・排出者責任

産業廃棄物は市町村ではなく、排出した事業者が最終的な責任を負う。委託業者が不適正処理をしても排出者が責任を問われる。

- ・マニフェスト制度

廃棄物の収集・運搬・処分の流れを管理票で記録し、適正処理を確認する仕組み。虚偽記載や未交付は違法行為となる。

- ・許可制

収集運搬業者や処分業者は都道府県知事の許可が必要。無許可営業は懲役や罰金の対象である。

主な問題点

- ・不法投棄

コスト削減目的で山林や空き地に投棄される事例が後を絶たず、土壌・水質汚染を引き起こす。

- ・最終処分場の不足

全国的に残余年数が減少しており、廃棄物の行き場が限られていることが深刻な課題である。

- ・環境汚染と健康被害

焼却による大気汚染、重金属や化学物質による水質汚濁が人体や生態系に悪影響を及ぼす。

- ・制度の形骸化

マニフェストの虚偽記載や保存義務違反が多発し、監視体制の不十分さが問題視されている。

- ・無許可業者の存在

許可を持たない業者に委託するケースがあり、違法処理や不法投棄につながる。

こうした問題は、戦後の公害事件や環境破壊（例：水俣病や四日市ぜんそく）の歴史とも深く結びついている。持続可能な社会のためには、リサイクル促進や電子マニフェストの普及、監視強化が不可欠とされている。

評価：★★★★☆